



諏訪湖クラブニュース NO.10

も く じ

平成 23 年の年明けに当ってのご挨拶…………… 1	ダニエル・ダティリオ氏からの手紙…………… 3
「水制度改革を求める公民運動」 についてのお知らせ …………… 2	ワークショップの報告…………… 4
	理事会報告…………… 12

平成23年の年明けに当たってのご挨拶 会長・沖野外輝夫

平成 23 年年頭のご挨拶をお送りします。新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくご協力のほどお願い申し上げます。昨年は御柱に明け、御柱に暮れた諏訪地方の一年でした。御柱の地域行事に関係された皆様には大変お忙しく、経済的にも負担が多かった一年ではなかったでしょうか。御柱祭に刺激されたわけでもありませんが、諏訪湖クラブもようやくクラブとしての活動が軌道に乗り始めた一年となりました。

春の総会後のチャリティーウオークは恒例のことでしたが、諏訪湖での淡水真珠養殖を目的とする諏訪湖浄化部会の立ち上げ、諏訪地域エネルギー協議会の継続、そして本号で詳しく紹介しているワークショップ・湖沼流域ガバナンスの開催、それに関連する信州大学と放送大学との合同講演会開催の後援など、地域の小クラブとしては負担の大きな活動で、会員の皆様には多くのご負担をおかけした一年でもありました。改めてこの場をお借りしてご協力にたいする感謝の意を表させていただきます。

12 月には拡大幹事会を兼ねてクラブ初めての忘年会を居酒屋「ごん太」で開催しました。年末のお忙しい中多くの会員に参加していただくことができましたこと、理事一同大いに驚くと共に感謝しています。また、参加者の顔ぶれを見ると平常では滅多にお顔

を拝見することも少ない方々のご参加もいただき、楽しい会話が弾み、時の経つのを忘れて歓談することができました。一年の締めには相応しい忘年会となり、これからもこのようなざっくばらんな楽しい集まりを開きたいと心底思っているところです。ご期待下さい。

拡大幹事会では松井覚進会員から、水循環基本法の制定と水制度改革を目的とする「水制度改革を求める国民運動」(水制度改革国民会議国民運動推進委員会)への協力についての提案がありました。21 世紀は水の世紀とも言われていますが、わが国の水に関する法体系は大変遅れています。水豊かなわが国ではありますが、早急に法体系を近代化し、水制度を整備する必要があります。それには超党派的な対応も必要です。理事会でも松井会員の説明と国民運動推進委員会からの協力要請書を読み、同運動に協力することを確認しました。関連記事はこのニュース 10 号に掲載してありますので、内容をご確認ください。

今年は諏訪湖クラブとしての諸活動が具体的な展開をする可能性の高い年でもあります。皆様のさらなるご協力をお願いすると共に、活発な御意見をお寄せくださることをお願いして、年の初めのご挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。



拡大幹事会兼忘年会で提議あり、諏訪湖クラブとして協力することが確認され、『水制度改革国民会議国民運動推進委員会』事務局へ以下の通り、メッセージを送りました。

「水制度改革を求める公民運動」についてのお知らせ

1. 「水制度改革を求める国民大会」を後援します。

本会の名称を後援団体として記載していただいて結構です。

水制度改革国民会議国民運動推進委員会殿

2011 年 1 月 3 日

団体名：諏訪湖クラブ

代表者氏名 沖野外輝夫

2. 国民大会に下記のメッセージをお伝えします。

水制度改革国民会議国民運動推進委員会殿

2011 年 1 月 3 日

団体名：諏訪湖クラブ

代表者氏名 沖野外輝夫

メッセージ

水は全ての生命の根源であることは衆知の事実です。一方、世界的には 21 世紀は水の世紀と言われていながらもかわらず、水の豊かな、水利用がきわめて便利な環境にあるわが国において私たちは水の大切さを忘れがちです。しかし、わが国の水制度が適切に制定、運営されているわけではありません。それは砂上の楼閣に近い状態にあるのではないのでしょうか。健全な水環境を維持、保全するためにも水行政の一元化と科学的な裏付けのある水制度の改革を早急に行う必要があると考えます。

今回の水制度改革国民運動を超党派的に行うことは、問題の性質上、また、緊急性、重要性からしても適切なことと同意し、地方の微力な住民団体ではありますが、後援団体としてこの運動に参加させていただきます。水循環基本法の制定を含め、水制度改革運動の進展により、わが国のみではなく、地球規模での水制度改革が適切に行われ、全ての生命にとって水環境が健全に維持、保全されることを期待しています。

3. 地元国会議員への要望及び水制度改革議員連盟（超党派）への加入の要望について、可能な範囲で努力してみます。

なお、アプローチを予定できる国会議員については現段階で具体的な名前を挙げることはできませんので、決まり次第お伝えすることにさせていただきます。

水制度改革国民会議国民運動推進委員会殿

2011 年 1 月 3 日

団体名：諏訪湖クラブ

代表者氏名 沖野外輝夫

4. 国民大会アピールなどへの賛同署名の委任

国民大会のアピール、政府への要望書の賛同署名は、貴委員会に一任します。

水制度改革国民会議国民運動推進委員会殿

2011 年 1 月 3 日

団体名：諏訪湖クラブ

代表者氏名 沖野外輝夫

寄稿

4 年間で諏訪で国際交流員として過ごしたダニエル・ダティリオ氏からの手紙をご紹介します



諏訪で生まれ変わった外国人

在ミネソタ州・ミネアポリス ダニエル・ダティリオ

2001 年から 2005 年まで諏訪に住んでいたダニエル・ダティリオと申します。このわずかな 4 年間でしたが、私は諏訪地域によって生まれ変わったと言っても過言ではありません。諏訪に住み着く前に短期間、愛知県の岡崎市で日本語を勉強しました。東京へも、何度か訪れたことはありました。その私が諏訪に初めて着いた時、諏訪の大自然や空気の綺麗さが何よりも印象的でした。諏訪では、首都圏や中京圏その他の大都会によってもたらされる感覚とは全く違う、なにか別の期待感がすぐに湧いてきました。それは、見知らぬ土地への不安ではなく、諏訪への期待感でした。

最初の 2 年間は、長野県の国際交流員として勤務をさせて頂きました。勤務の内容は、主にイベントを立案して、それを通してアメリカの文化を県民と交流・共有するということでした。しかし、最終的に一番影響を受けたのは、間違いなくこの私自身でした。自分が影響を受け、変わることができたきっかけは、友情に恵まれたからです。日本でスノーボードを覚えられたのも、友達のおかげです。馬刺しを食べられたのも、友達のおかげです。御柱の経験ができたのも、友達のおかげです。長野の温泉巡りができたのも、やはり友達のおかげでした。友達のおかげで、本当に数え切れない体験ができました。しかし、その友達は簡単にできたわけでは、ありませんでした。無論一概に言えないでしょうが、諏訪生まれの方は大都会の方と違って、あまり自ら外国人と接してきません。ところが、一度友達になると、一生の友情が生まれるのは、諏訪独特の特徴です。幸いに諏訪合同庁舎で勤務していたため、仕事のつながりでも友達ができました。その後も、時間の経過に伴って、友達の輪が広がっていきました。



山に囲まれている諏訪は、ウィスコンシン州という平地の都市に生まれ育った私にとって、日々自然と向きあう機会がある素晴らしい場所でした。諏訪はまさに人の里と自然との境目であり、諏訪の方々がそうやって何千年以上自然を保護しながら、自然からの資源を「ものづくり」に変換してきたことに気づきました。その自然とのバランスを崩しかけた前世紀の後半から、諏訪の人は一所懸命それを直そうとしています。諏訪地域は周りの山のおかげで、綺麗な水に恵まれていて、昔からお酒や生糸の産地でした。そこから「ものづくり」が盛んになったという意識、誇りが時間とともに高まってきました。そうして、その「ものづくり」が、現在の精密企業を産み出しました。合同庁舎勤務 2 年目の時に、事務所によく来てくれた、血圧計を製造している会社の社長に出会いました。海外への進出を手がけた社長から、外国人の私に会社へ入社するように誘われました。その時までビジネスと無縁だった私は、その誘いに迷いました。しかし諏訪で多くの体験ができた私は、勇気を振り絞ってその誘いにも乗りました。血圧計の会社で 2 年の勤務を経て、私はアメリカに帰らざるを得なくなりました。しかし日本の企業に勤務した経験が活きて、アメリカの医療機器メーカーにすぐ採用になりました。そうして今では、医療と関係を持たない仕事は、考えられません。私は、諏訪地域によって生まれ変わったと言っても、過言ではありません。この諏訪地域へ一生の友情を感じております。ありがとうございます！



ワークショップ

湖沼流域ガバナンス・太湖～諏訪湖 —環境再生に向けて—

(平成 22 年 12 月 11 日～12 日、於 諏訪 浜の湯)

沖野 外輝夫

前回のニュース 9 号でお知らせした表記のワークショップが予定通りに開催されました。現地視察の当日も寒くはありましたが幸いに天気良く、「千の水」で昼食後、諏訪湖を反時計回りに一周、途中下諏訪高木で一度下車、修復された湖畔について説明、続いて釜口水門では下水処理場の処理水が水門の湖側、およそ 200 メートル地点(標識ブイが湖面に浮いている)に放流されていること、天竜川はおよそ 200 キロメートル下流で太平洋に流出することなどを説明しました。その後豊田の下水道終末処理場に移動して下水道建設に関する報告と施設見学を行いました。

ワークショップ 2 日間の行程・プログラム

* 前の日は東京でワークショップが開かれました。

< 現地視察 >

期日：平成 22 年 12 月 11 日

- | | |
|---------------|--|
| 11:30 | 「あずさ」9号にて上諏訪着、バスにて浜の湯へ移動 |
| 11:40 頃 | 浜の湯到着、荷物を置いて、バスで丸高味噌「千の水」に移動、昼食。 |
| 13:00 頃 出発 | 諏訪湖を反時計回りで一周、途中随時下車視察、釜口水門を経て、流域下水道豊田終末処理場へ。 |
| 15:00 ~ 16:30 | 豊田終末処理場にて下水道建設の経緯説明と施設見学 |

< 歓迎会 >

日時：平成 22 年 12 月 11 日 18:00 ~

場所：ベルファイン橋場

現地参加者：諏訪市長、沖野、上島、平林、矢島(恵)、
金子(田)、高木、金子(ゆ)

< ワークショップ >

日時：平成 22 年 12 月 12 日 10:00 ~ 17:30

(受付開始 9:00)

場所：浜の湯(1階 コンベンション・ホール)



ワークショップ内容：（日中、日英の逐次通訳）

午前（10：30-12：30）：座長：花里孝幸（信州大学・教授）

基調報告 1．諏訪湖の汚染と再生の経過（諏訪湖クラブ：沖野外輝夫）

基調報告 2．アメリカ・ミシガン湖の事例（ウエイン州立大学 ノア・ホール）、
Coast keeper alliance について（カリフォルニア沿岸管理連盟リンダ・シーハン）

基調報告 3．中国・太湖流域の現状と課題（南京大学環境学院研究員：王仕）

午後（14：00-17：30）：座長：沖野外輝夫（諏訪湖クラブ 会長）

[前半] 地元住民団体（10～15 団体）からの会創立の経緯、諏訪湖浄化運動への関わりについての紹介

1．元行政の立場から（平澤幸雄：湖畔修復、北原正義：アダプトプログラム）

2．住民の立場から

（矢島光子・国際ソロプチミスト諏訪、滝脇 篤・下諏訪湖浄連、長崎政直・諏訪湖ロータリー、
塩原 俊・環境会議諏訪、小林 茂・全国語学教育学会信州支部、岩下 泉・美サイクル茅野）

3．企業の立場から（藤森郁男・竹屋味噌、藤森常昭、田中規久・エプソン）

[後半] 来訪者からの質問による質疑、応答

ワークショップ閉会后 18：00 より浜の湯にて懇親会を開催し、和やかに日中米の参加者が懇談しました。

来訪者のご紹介

< 海外招聘者氏名・所属等 >

王 仕（南京大学環境学院環境管理・政策研究センター 研究員）

単 来娟（南京大学環境学院環境管理・政策研究センター 補助研究員）

蔣 岳群（江蘇省宜興市宜興経済開発区環境保護弁公室 主任）

冉 麗萍（グリーンキャメルベル・プロジェクトオフィサー）

王 君智（江蘇緑色の友・プロジェクト部）

ジェニファー・ターナー（ウッドロウ・ウイルソンセンター中国環境フォーラム 代表）

ピーター・マルスターズ（ウッドロウ・ウイルソンセンター中国環境フォーラム）

リンダ・シーハン（カリフォルニア沿岸管理連盟専務理事）

ノア・ホール（ウエイン州立大学法学部）

< 国内来訪者 >

磯野弥生（東京経済大学現代法学部 教授）

水落元之（国立環境研究所アジア自然共生研究グループ 主任研究員）

藤田 香（近畿大学総合社会学部 教授）

大塚健司（アジア経済研究所新領域研究センター 主任研究員）

山田七絵（同上 研究員）

張 宏武（同上 海外客員研究員）

ワークショップ発表者（12 日午後の部）要旨

（以下の文章は発表者からの資料をもとにして会長が作成しています）

。行政の立場から

1. 平澤幸雄（元長野県諏訪建設事務所・所長（1992～1993）、諏訪湖クラブ・会員）

- 1) 時代背景：土木事業に対するイメージは悪かった。県の土木職員としては社会資本の整備に必要な魅力ある職業としてイメージアップを図る必要があった。全国的に、自然環境、景観に配慮した公共事業が求められていた。
- 2) 地域から学ぶ「自然環境の創造・景観形成・土木事業との調和」
諏訪湖が学習の場に。地域住民団体との話し合い、工事側へ環境への配慮を働きかけ、合意形成へと進展。スローガンは「豊かで美しい諏訪の躍進を目指して」、県土木部の職員としては「常に災害から人命・財産を守る治水事業」を核とした。
- 3) 歴史的第一歩、諏訪湖渚の復元。上川河口付近（洪崎地先）の覆土工事。失敗例。
第二弾として下諏訪町高木（水際にカラマツ材で木工沈床を設置）。成功への第一歩。次いで、「日独環境まちづくりセミナー」に参加、提言を生かし「触れあい渚」造成へ
- 4) まとめ：長野県建設事務所としての対応と事業実施プロセス：民意（地元支援） 住民、専門家の意見整理 行政側計画に反映 全体同意 計画実施

2. 北原正義（元長野県諏訪建設事務所・所長（2000-2003）、諏訪湖クラブ・理事）

「諏訪湖アダプトプログラムの取組み」

- 1) アダプトプログラムを始めた背景
 - ・諏訪湖浄化にむけた地域の合言葉 ----- 「泳げる諏訪湖を取り戻そう」
 - ・諏訪湖浄化に向けた「民」（住民）、「学」（学校）、「官」（行政）による各種連携事業の展開
 - ・国内外、地域の子供からお年寄りまで、誰もが参加できる事業の活発化
 - ・環境美化活動への参加が促される住民意識の向上
- 2) アダプトプログラムの目的
 - ・「みんなの諏訪湖はみんなで守ろう」自主活動の呼びかけ
 - ・この活動を通じ身近な環境全般の保護意識の醸成
- 3) 諏訪湖アダプトプログラムの概要
 - ・諏訪湖周囲 32 区間に 64 団体が参加
 - ・担当区間（延長 500 メートル）の活動内容を約束（管理者との契約）
 - ・担当区間の責任者（参加団体）の明示（アダプトサイン）
 - ・諏訪湖アダプトプログラムシンボルマークの決定（ハヶ岳と諏訪湖）
- 4) 諏訪湖アダプトプログラムの効果、課題
 - ・住民の皆さんと行政の新たなパートナーシップ誕生（連携と分担）
 - ・行政の垣根を超えた受け入れ体制の構築（ゴミの処分）
 - ・地域の異業種交流
 - ・参加者による自主運営



。住民の立場から

3. 矢島光子 (国際ソロプチミスト諏訪・会長)

国際ソロプチミスト：職業を持つ女性の世界的組織。124 カ国、約 10 万人が活動する奉仕団体。様々な奉仕プログラムに取り組んでいる。国際ソロプチミスト諏訪は発足以来、諏訪地域の豊かな自然を守りたいという願いから、環境問題を重点課題として取り組んできた。

具体的な取り組み：湖畔にナナカマド植樹（現在までに 115 本）。VTR「ごめんなさい諏訪湖～みずうみへの夢・泳げる日を～」自主制作、教育機関等への配布。「水」をテーマとするユースフォーラム開催（高校生 5 人を派遣、諏訪湖に関する意見発表と質疑）。流域下水道豊田終末処理場の周辺緑化。天竜川水系合同フォーラム開催（源流から河口までの連帯）。アダプト・プログラムへの協力。

4. 滝脇 篤 (下諏訪諏訪湖浄化推進連絡協議会・会長)

湖浄連は下諏訪青年会議所が行ってきた「トンボ作戦」がきっかけの一つとなり、1981 年に発足した。事務局は下諏訪町役場の中にある。湖畔清掃、各種のイベント開催、湖畔清掃活動など町民こぞで行ってきた。来年で 30 周年を迎え、記念事業を企画している。諏訪湖再生を願うまとまった取り組みとしては湖周地域でももっとも長い活動の一つである。

5. 長崎政直 (諏訪湖ロータリークラブ・会長、諏訪湖クラブ・専務理事)

諏訪湖浄化への取り組み：クラブ創立時（1985 年）に「諏訪の心を鏡とし、奉仕の誠を尽くそう」を精神的支柱とした。設立 5 周年頃から諏訪湖浄化を奉仕課題の一つとして取り上げ、下諏訪町の諏訪湖浄化推進連絡協議会に参加、湖畔清掃に取り組んできた。

クラブ内に「諏訪湖浄化特別委員会」を設置、諏訪湖浄化基金を開設。諏訪地区各地のロータリークラブと連携して、諏訪建設事務所との懇談、下水道の早期完成推進・下水道接続キャンペーン、ごみ不法投棄防止、湖河川清掃への協力、人工渚等、湖畔再自然化計画への参画などに取り組んできた。15 周年記念事業（1999 年）として、甦れ諏訪湖を目指して「水のコンサート」を開催。信州大学山地水環境教育研究センターに研究助成金を贈呈（1994 年～現在）。

6. 塩原 俊 (環境会議諏訪・会長、諏訪湖クラブ・会員)

設立の趣旨：1960 年代の霧ヶ峰にピーナスライン（山岳観光道路）開設、1980 年代の八ヶ岳西南地区での大規模リゾート開発など、各種開発による諏訪地域の自然破壊に警鐘を鳴らすべく 1989 年に設立した。当初の「ゴルフ場反対」運動から、「ダム建設反対」へと展開、現在「諏訪湖浄化」運動に発展している。

諏訪湖は下水道開設後、「人工渚」建設などにより水質浄化は飛躍的に進んだ。しかし、エゴ（諏訪湖畔の湾入した湿地帯）の埋め立て、下水処理水の湖内放流、釜口水門の上段越え放流、排気ガス、冬季の道路融雪のための塩化カルシウム、塩化ナトリウム散布など、環境への影響の大きな課題が未解決で残されている。諏訪湖問題は今「水質浄化」よりは「生態系復活」に重点が置かれなければならないと認識し、問題提起を行っている。

7. 小林 茂 (JALT : 全国語学教育学会・信州支部、諏訪湖クラブ・会員)

発足の趣旨：1990年に発足、当時、日本での湖沼環境汚染の指標とも言われていた諏訪湖の周りを、実際に自分の足で歩き、自分の目で確かめる事から諏訪湖浄化を考えようと、チャリティーウォークは始められた。環境問題に対する啓発、意識の向上を図ることが目的であった。主催者はJALTと諏訪湖クラブ(当初は「諏訪環境まちづくり懇談会」)で、開会挨拶などは英語も使用している(英語圏の人の参加もあるので)。

経緯と内容：1990年より始め、毎年5月に実施、これまで21年間継続している。2011年も5月3日開催を予定している。ウォーキングの内容は、湖周を半周しての観察、船上から(帰途は遊覧船で横断)の観察、諏訪湖に係るフォーラム(昼食後)の開催の三本立てで行っている。このウォークの特徴は、住民、行政一体(一般市民、信州大学教員・学生・院生、諏訪建設事務所職員、JALT会員)で全てボランティアとして行っていることである。最近では、参加者の半数近くが小・中学生、幼児連れとなっている。

8. 岩下 泉 (美サイクル茅野・会長)

茅野市は諏訪湖と接してはいないが、大小18の河川が貫流していて、全てが諏訪湖への流入河川である。諏訪湖浄化への責務は諏訪湖隣接市・町と同じと考えている。会の運動は10年前から始めた。

- 1) 河川に対する認識の改善：「河川整備は河川管理者の長野県がやるべき」「一番身近な自然環境は住民自身が守るべき」をスローガンにアダプトプログラム、クリーンウォークに参加、清掃活動に従事。
- 2) 「茅野市河川保全整備推進協議会」設立。現在12の流域区が活動中。
- 3) 市民による自然環境調査を実施。自然に目を向ける習慣をつくる。
- 4) 湧水の水質を維持する。

諏訪湖は諏訪人の誇りであり、シンボルである。行政任せだけでなく、諏訪人の手と汗で護り、泳げる諏訪湖の復活を期したい。

。企業の立場から

9. 藤森郁男 (株竹屋・社長、諏訪国際交流協会・副会長、諏訪湖クラブ・会員)

諏訪湖流域における味噌の生産は明治初頭(1870年頃)より発展し、昭和40年代(1965年頃)には年間50,000トほどになり、地域産業となった。その頃、諏訪湖の汚濁が社会問題となり、有機廃水の一つである味噌の製造廃水についても処理に取り組むことになった。当時の課題は次の通りである。

- 1) 廃水処理技術の問題：当時は、味噌の廃水処理に関するデータが国内、国外にもなく、自力で始めざるを得なかった。活性汚泥処理方式、ラグーン(酸化池)処理方式、濃縮処理方式など、短時間で処理方式の開発を行った。
- 2) 資金問題：味噌産業の企業規模に比較して、設備投資資金が大きすぎるため、長野県の指導を得て、高度化資金を借入れ、建設を行った。
- 3) 組織的問題：公害問題の解決のためには、大小を問わず、全企業者の参加が必要と考えた。そこで、諏訪市に2カ所、茅野市と岡谷市に各々1カ所ずつ、計4カ所に処理施設を設置して、全事業者はどれかに所属、共同組合方式で運営が行われた。

その後、流域下水道が建設され、事業者は個々に対応できるようになり、組合運営は徐々に無くなり、現在に至っている。

当初の公害問題から環境問題へ、さらに温暖化対策へと企業環境は変化してきたが、常に、諏訪湖のことを考えながら取り組んできたと思う。

10. 藤森常昭（元メッキ工場経営、落水の会、諏訪湖クラブ・会員）

メッキ工場廃水の組合方式による集中処理について。メッキ工場廃水の処理は施設を長野県が建設、各工場から廃水を運搬、投入して、集中処理が行われていた。この処理施設は恒久的な施設ではなく、各企業に処理施設が設置されるまでのつなぎ役であった。現在は各企業に個別処理施設が整備され、集中処理施設はすでに廃棄、取り壊されている。

11. 田中規久（セイコーエプソン(株) 地球環境推進部・部長）

昨今の地球温暖化の影響とも思える現象は私たちの身近なところでも起きている。例えば、諏訪の平均気温はこの 60 年間で 1 上昇し、諏訪湖の御神渡りは年を追うごとにその発生が減少しています。

セイコーエプソン(株) は 1942 年の創立以来、自然豊かな地で生まれ育った企業として、常に環境との調和を図ることが社風として定着しております。本日は、エプソンが行っている地元で根ざした環境活動として 2 つの事例を紹介します。

一つ目は、無料で中小企業の省エネ診断を行う「信州省エネパトロール隊」です。パトロール隊参加企業はボランティアで隊員を派遣して、省エネアドバイスをを行います。エプソンは隊長企業としてエプソン社内に事務局を置き、隊を牽引しています。

二つ目は、「神宮寺 100 年の森」への支援活動です。これは、諏訪市の神宮寺生産森林組合と契約し、エプソン社員がボランティアで守屋山の間伐や枝払い等に参加しています。生物多様性保全活動の一環として、地元の里山保全に協力するとともに、自然に親しむ場を社員に提供しています。



以上がワークショップの内容です。多くの会員と会員以外の諏訪の団体の方々のご協力で、現地ワークショップ当初の目的を果たすことができました。ありがとうございました。国内、海外からの来訪者の皆様にも満足していただき、太湖の紹介をされた王仕氏は、諏訪湖での取り組みを参考にして中国・太湖での浄化活動に生かしていきたいと語っておられました。太湖の浄化がより以上に進むことが期待されます。

私たちにとっても、諏訪湖の事例が他の国の参考例として取り上げられる迄になったことは誇れることですが、諏訪湖にもまだまだ多くの課題が残されています。これからもそれらの課題に適切に対処していく必要があります。



諏訪地域では近年この季節になると「今シーズンは御神渡りは出現するのか？」と、話題になります。

左は高木理事のご友人（東京）から送られてきた写真...規模から見て 3 シーズン前の御神渡りか？（沖野会長）とのこと。はてさて、神様の恋路を久々に拝みたいものですが、どうなりますでしょうか？

ワークショップ スナップ



2010.12.11 (昼)
諏訪湖流域下水道豊田終末処理場にて、諏訪建設事務所の方から説明を受けた後、処理場施設を見学、溶融炉から出された溶融礫の山の前で、この礫には金が含まれているとの説明に来訪者はびっくりしていました。

2010.12.11 (夜)
歓迎会の会場が和室になり、会が進むにつれて車座で談笑するようになりました。日本式歓迎スタイルも捨てたものではありません。手違いで会場設営に奮闘していただいた上島さんありがとうございました。



2010.12.12
浜の湯で本番のワークショップが開かれました。用意された 70 名分の椅子がほぼ埋まる盛況でした。来訪者の方々も満足して帰られました。ノアさんは帰りがけにホームの足湯へ、張さんは今度は家族連れで来たいそうです。

2010.12.11

「千の水」で昼食、和風の建屋に興味津々の来訪者一行。メニューは限定でしたが前日に金子田実副会長が奮闘して英語と中国語の訳文を付けてあったのでお客さんも大喜びでした。まずは国際親善からスタート。



2010.12.12

ワークショップが終わって懇親会でリラックス。来訪された中国の方々もアメリカの方々も皆若く、朗らかでした。諏訪湖クラブのメンバーも若返り、アメリカからのお土産、バーボンで乾杯、和やかな雰囲気となりました。

2010.12.13

あっという間の3日間、再会を約束して一行は東京へ。すっかり温泉好きになったノア・ホールさんはホームの足湯へ、現在アジア経済研究所の客員研究員(写真手前)として在日している張宏武氏は次回は家族同伴で来訪したいと笑顔で再見！



ワークショップ スナップ

理事会報告

<第31回>

日 時：H22 8月14日(土) 午前10時～12時

参加者：沖野、金子、長崎、北原、上島、鴨志田(電話)、高木

議 事

1. 諏訪地域エネルギー協議会(8月9日開催)の報告
2. 諏訪湖浄化と淡水真珠養殖についての事前会議(8月9日開催)についての報告
3. その他

<第32回>

日 時：平成22年17日(日) 午前10時～12時

参加者：沖野、金子、北原、上島、鴨志田、宮原、市川、小林茂、高木

議 事

1. 諏訪湖浄化部会(淡水真珠)経過報告
2. 信大センター・放送大学講演会

3. 『諏訪湖の水質浄化と地域振興を考える』(平成22年10月23日 開催)について
3. 「流域ガバナンス・諏訪」ワークショップの開催
(平成22年12月11、12日)について
4. 諏訪地域エネルギー協議会について
5. その他

<第33回>

日 時：平成22年11月21日(日) 午前10時～12時

参加者：沖野、長崎、上島、市川、高木

1. ワークショップ「湖沼流域ガバナンス・太湖～諏訪湖 環境再生に向けて」の開催について
2. 諏訪湖浄化部会(淡水真珠)経過報告
3. 諏訪地域エネルギー協議会について
4. その他

<第34回>

拡大理事会(兼 忘年会)

日 時：平成22年12月26日(日) 午後5時～

場 所：湖明館通り 『ごん太』にて

参加者：沖野、小林聖、金子(田)、谷、長崎、上島、市川、宮坂
松井(覚)、松井(宏)、金高、林、井上、田代、小池、矢島
宮原、鴨志田、金子(ゆ)、高木

議 事

1. 「湖沼流域ガバナンス・太湖～諏訪湖 環境再生に向けて」のワークショップからの報告
2. 諏訪地域エネルギー協議会からの報告
3. 諏訪湖浄化部会(淡水真珠)経過報告
4. 水制度改革国民会議国民運動推進委員会からの依頼について
5. その他

企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局

〒392-0017 諏訪市城南二丁目2362

TEL/FAX 0266-58-0490 E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

諏訪湖クラブニュース

No.10

